

**受賞おめでとうございます**

**区政功労者賞** (敬称略)

◇民生委員 10年以上：平林 圭子  
福原 美子

◇自治会・町会(副会長) 10年以上：影山 昭榮

◇投票管理者 20回以上：堅田 清子

**東京都青少年健全育成表彰**

◇青少年健全育成協力者感謝状 溝口 美枝子

**公園へ入る道がカラー舗装されました**

山王三丁目東自治会  
京浜東北線の車窓からだすとすぐわかるのに、池上通りからだすとわからない、新井宿第一児童公園。山王三丁目バス停前の「カドヤ」の裏に有りますが、入口がよくわかりません。そこで区に相談したところ、和菓子の「金海堂」の隣から公園に続く道がカラー舗装され、わかりやすくなりました。公園はフェンス1枚隔てて JR の線路、向こうには機関車のある入新井西公園で、電車好きにはたまらないスポットです。改修されてきれいになり、「だれでもトイレ」や健康遊具もあります。隣の名店街会館では高齢者の生きがい



づくりの活動(コミュニティカフェ 遊とびあ)が行われています。復活した柳の並木をぶらぶら歩いて、楽しいお店がたくさんある商店街で買い物して、寄ってみてはいかが？

**小学1年生に入学おめでとうの記念品**

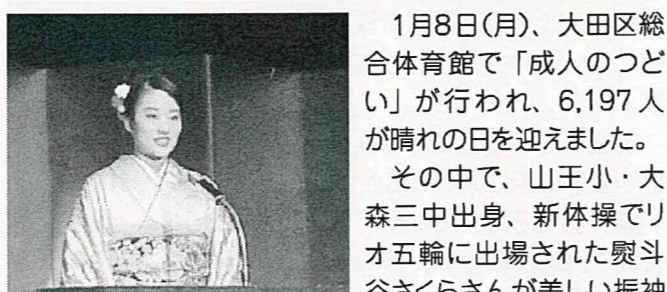
山王三丁目町会  
山王三丁目町会は、今年度4月に小学校に入学する町会内の1年生に対して、久しぶりに記念品を贈ります。予定される児童は18人。少ないと思いませんか？いえいえ、10人以下の時期もあったのです。近年、徐々に児童は増加しています。町会の役員がご家庭に伺って記念品を差し上げます。子どもたちは「大切な町の宝」。これからもしっかり見守っていきます。

**編集後記**

今号は、2・3面では池部釣の息子、池部良の特集です。そこにもつわる鐘々たる面々、他にも沢山の文化人が住んでいた新井宿は魅力的な所です。「そよ風ときにはつむじ風」のところでは、懐かしい場所が思い出された方もおいでではないでしょうか。1面では新井宿特別出張所の観光情報コーナーの案内です。新井宿、大田区の沢山の資料が置いてあります。新井宿にはさまざまな文化施設があり、講座の

案内や散歩コースのパンフレット等もあります。暖かい時期になってきましたので、地図を片手に散策されてはいかがでしょう。また、「(仮称)新井宿まち歩き講座」を開催予定とのこと。みんなで歩くのも楽しいものです。乞うご期待！  
編集委員になって、何もわからないまま早一年。奥深い新井宿、もっと勉強をさせていただきます。  
(雫本編集委員)

**新体操の熨斗谷さくらさん「成人のつどい」で抱負を語る**



1月8日(月)、大田区総合体育館で「成人のつどい」が行われ、6,197人が晴れの日を迎えました。その中で、山王小・大森三中出身、新体操でリオ五輪に出場された熨斗谷さくらさんが美しい振袖姿で登壇し、2020年東京オリンピックに向けての抱負を語っていただきました。式典会場の外では似顔絵コーナー、「はねぴょん」や「オーちゃん」との記念撮影コーナー、10年後への手紙コーナーなど、様々な趣向が施されており、若者たちの楽しむ姿が眩しかったです。成人された皆様、誠におめでとうございます。

**入四ランナース、全国大会へ**

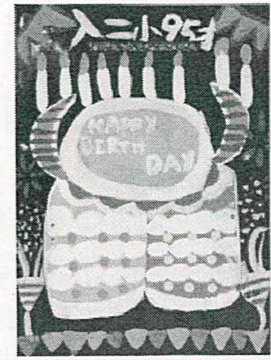
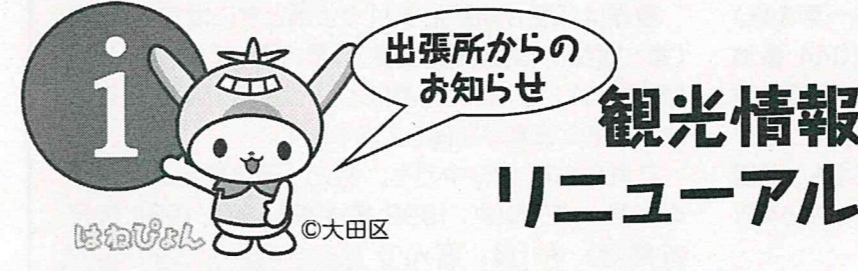
入四ランナースは昨年11月、東京都小学生男子秋季ソフトボール大会で優勝し、三年ぶり三度目の全国大会出場が決定しました。全国大会は、今年の夏、愛媛県で開催の予定です。ランナースは入四小の生徒だけではなく近隣の子どもたちも含み、入四小校庭で練習しています。第16代校長の須藤らん子さんの名前の「らん」をいただいて「入四ランナース」と名付けたと言われています。



**山王三丁目東自治会前会長 石川義雄様ご逝去**  
平成24年5月から平成29年5月まで、山王三丁目東自治会会長として地域に力を尽くされた石川義雄様が平成29年11月1日逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

発行 地域力推進新井宿地区委員会  
編集 「わがまち新井宿」編集委員会  
中央四丁目町会 編集委員長 若生 一順  
山王三丁目東自治会 副編集委員長 荒木 秀樹  
山王三丁目町会 副編集委員長 吉川 信一  
山王三・四丁目自治会 編集委員 三沢 清太郎  
中央一丁目町会 編集委員 形見 俊郎  
中央一丁目町会 編集委員 関口 直人  
新井宿五丁目町会 編集委員 加藤 弘子  
新井宿六丁目町会 編集委員 雫本 まり子  
新井宿六丁目町会 編集委員 松原 美枝子  
新井宿七丁目町会 編集委員 落合 松枝  
……共同編集……  
監修 新井宿自治会連合会  
事務局 大田区新井宿特別出張所  
大田区中央1-21-6 ☎3776-5391

わがまち **Araijuku**  
**新井宿**



「入二小95才  
バースデーケーキ」  
(つや紙にカラーシジュ  
十ポスターカラー)  
入一小5年  
たぐさ  
谷口爽和さんの作品  
オーちゃん

**観光情報コーナーを  
リニューアルしました!**

新井宿特別出張所1階の「観光情報コーナー」をご存知でしょうか。平成26年11月25日に今の場所へ移転した際、新設したコーナーです。開設から今日まで、特別出張所では唯一、観光課公認の「観光情報コーナー」として、大田区内の様々な情報を提供してきましたが、3年が経過し、「欲しいパンフレットがどこにしているかわからない」、「観光の情報は何?」など、利用者の方から様々なご意見をいただくようになりました。

そこで、観光課と共同で、「もっと皆さんに情報をわかりやすく提供する」をテーマに、コーナーをリニューアルいたしました。これまで、近隣の文化施設の案内パネルは、施設によって製作がバラバラで、パンフレットを置いている場所も統一されていませんでした。

今回のリニューアルで、近隣施設の案内パネルを同一規格にし、窓側に並べました。また、壁には周辺のイベント案内がお知らせできるように、コルクボードを設置しました。不定期ですが、どんどん新しい情報に更新していきますので、ぜひお立ち寄りください!

新井宿特別出張所内観光情報コーナー  
営業時間 月～金 8:30～21:00  
土日祝日 9:00～21:00  
(年末年始は除く)



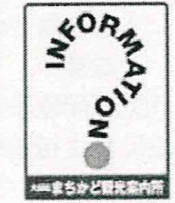
【外から見た観光情報コーナー】



【自由にご覧いただけます】



**フリーWi-Fiが使えます!**  
無線LANに接続できる通信端末があれば、誰でも無料でご利用いただけます。メールアドレスを登録するだけで、簡単にご利用いただけます。1回あたりの利用時間は60分、1日何回でも利用できます。\*サービスの利用にあたっては、OTA CITY FREE Wi-Fi サービス利用規約に同意いただく必要があります。



**大田区まちかど観光案内所に指定されました!**  
大田区では、以下の条件を満たしたスポットを「大田区まちかど観光案内所」に指定しています。  
・観光マップ、パンフレット等を設置する  
・可能な範囲でトイレ、休憩スペース等を提供する  
\*トイレだけでもお立ち寄りください!\*

**予告 「(仮称)新井宿まち歩き講座」を開催予定!**  
新井宿地区にたくさんある歴史・文化・伝統といった魅力を再発見していただくために、参加者の皆さんでスポットを巡る講座・ワークショップを開催する予定です。観光情報コーナーをスタートし、新井宿地区を散策します。今後、観光情報コーナー、区設掲示板、町会掲示板などで募集いたしますので、お見逃しなく!

# 新井宿出身の映画俳優 池部 良 生誕100年記念

## ～ 映画「青い山脈」と新井宿でのこと ～



### 池部 良 (1918～2010) のプロフィール

1918年(大正7年)2月11日、父・鈞(洋画家・漫画家)、母・萱子(岡本太郎の父・岡本一平の妹)の長男として東京市大森区新井宿四丁目1044番地(現大田区中央四丁目8番)に生まれ、入新井第二尋常小学校卒業。立教大学英文学専攻卒業後、東宝シナリオライターを経て、東宝映画の専属俳優になり、「闘魚」他に主演。昭和17年に召集されるまでの24年間、両親とともに新井宿で暮らしました。

しかし、戦後、復員してきたときには、新井宿の自宅は建物強制疎開にあって取り壊され、両親と再会したのは、疎開先の古河(茨城県)でした。

復員すると俳優に復帰。その甘いマスクと洗練演技でファンを魅了し、「青い山脈」「暁の脱走」「現代人」「雪国」「暗夜行路」「早春」「乾いた花」「昭和残侠传」など約200本の映画、「かの子療院」などの舞台、約150本のTVドラマに出演。

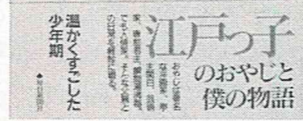
常にスターとして活躍しました。また、エッセイストとしても高い評価を得て、逝去直前まで筆を執り続

けました。著作は、「風が吹いたら」「そよ風ときにはつむじ風」(第11回日本文芸大賞受賞)「風、凧んでまた吹いて」「風吹き鴉」をはじめ多数あり、大田区立図書館にも約30冊の著書が在庫してあります。

これらの著作の中でも、特に「そよ風ときにはつむじ風」(三部作:1990、続・1992、続続・1994、毎日新聞社)や「風、凧んでまた吹いて」(1991、講談社)、「風吹き鴉」(1997、毎日新聞社)には、家族とともに温かくすごした新井宿での日常が軽妙に綴られています。



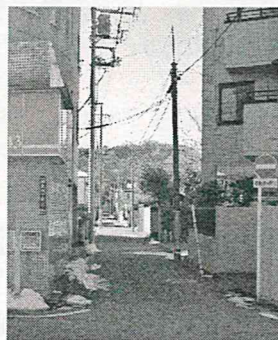
▶「そよ風ときにはつむじ風」表紙(1990、毎日新聞社)(第11回日本文芸大賞受賞)



### エッセイに綴られた懐かしい昔の新井宿

#### ●「そよ風ときにはつむじ風」(三部作)から

1. 家族で活動写真館(映画館)・新井キネマへ  
(\*大森赤十字病院のほど近くにあった映画館)
2. 大森ホテル(現山王公園)でお召し列車を見物
3. 佐伯山の崖下の小川での魚釣りの話など
4. 春日神社のお神楽や夜店のお話
5. 射撃場(現大森テニスクラブ)からの眺望
6. 大森駅の人力車のお話など
7. 春日神社の隣の小さなパン屋(イギリスパン)
8. 沢田の踏切・「開かずの踏切」のお話  
(\*春日橋(鉄道用の陸橋)ができる前の踏切)



【写真】白田坂下の龍子記念館入口信号のそばから佐伯山を望む。この道路の左側に、かつて池部邸がありました

9. 葛目医院で父・鈞が鼻の手術を受けた話  
(\*現子母沢児童公園付近にあった耳鼻科の病院)
10. 佐伯栄養学校の女学生が池部宅で雨宿り
11. 川端龍子の奥さんから松茸をいただいた話
12. 新井宿四丁目隣り組の組長・鳥沢さんのお話

#### ●「風、凧んでまた吹いて」から

13. 「出土橋」の橋際にあった農家での出来事
14. 建物強制疎開で壊された自宅の思い出
15. 大森区役所で徴兵検査を受けた時の話
16. 新井宿の自宅での出征前夜のエピソード

#### ●「風吹き鴉」から

17. 自宅で経験した関東大震災の詳しい話
18. 「大田区新井宿四丁目一〇四四番地」という章には、家の周りや家屋の様子などが詳しく記されていて興味深い
19. 川端龍子宅へよくお使いに行かされたこと
20. 池上街道を練り歩くお会式の万灯行列のお話

#### ●入新井第二尋常小学校について

思い入れが深かったためか「入新井第二尋常小学校」については多くのエッセイを書いています。入学してから卒業するまでの自身の学校生活をはじめ、恩師や同級生たちとの思い出や、学校の近くや大森駅周辺で開いた同級会の様子などが実名入りで事細かに描かれています。

### 映画「青い山脈」と石坂洋次郎

映画「青い山脈」は、1947年「朝日新聞」に連載された小説(石坂洋次郎著)を原作として1949年(昭和24年)に今井正監督で映画化され、一大ブームを巻き起こし、その主題歌は今なお国民的愛唱歌となっています。

現在、この映画のDVDが、東宝などから販売されていて簡単に手に入れることができます。

原作者の石坂洋次郎(1900～1986)は、青森県生まれで、慶応義塾卒。慶応義塾卒業前年の1924年(大正13年)から卒業するまで、新井宿の九州閣というアパート(白田坂下付近)に家族で住んでいたことがありました。同郷で慶応義塾文科の同窓の北村小松が住んでいた部屋に入れ替わりで住むことになったと石坂は自伝に書いています。

北村小松は日本初の本格的トーキー映画「マダムと女房」(1931、松竹蒲田作品)の原作脚本を手掛けた大田区にゆかりの深い脚本家です。

九州閣は出窓のある瀟洒な建物で、三島由紀夫が馬込に住むきっかけを作ったといわれる長岡輝子も一時ここに身を寄せたことがありました。

池部良は、この映画に出演することになった経緯を、石坂洋次郎への感謝の思いを込めて、「石坂先生と僕の偽青春」という章におおよそ次のように書いています。

『僕の青春時代は戦争という奴で雲散霧消して、青春時代から抜け出してしまった年齢になっていたが、プロデューサーから、石坂先生が「高校生役の六助には、三十過ぎとはいえ池部君しかいない」とおっしゃっていると言われ引き受けた。映画の役とはいえ、第二の青春を作って下さったのは他ならぬ石坂先生であり、有り難い好きなお方だった』



【石坂洋次郎と川端康成の文士住居跡解説板】

### 川端康成の妻・秀子の目撃談

川端秀子著「川端康成とともに」(1983、新潮社)の中に、「すぐそばに漫画家の池部鈞さんの家がありまだ小さかった池部良さんが遊んでいるのを見かけたことがあります。とても可愛い子でした」という目撃談が書かれていて、近所に住んでいたことがわかります。

川端夫妻は、尾崎士郎から大森に来よう勧められ、1928年(昭和3年)5月にまず大森ホテルに投宿しながら家探しをして、新井宿の子母沢に転居。さらに数ヶ

月後、馬込町小宿(現南馬込三丁目)に移り、翌年9月頃まで馬込に住んだ後、上野桜木町に転出していきました。

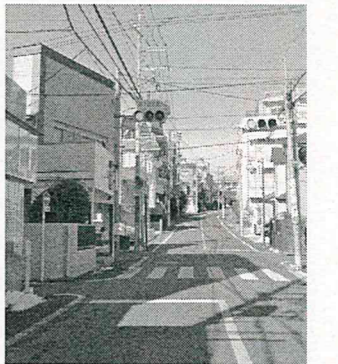
今年(2018年)は川端康成(1899～1972)が新井宿に転居して90周年、ノーベル文学賞受賞50周年に当たります。そして、来年には生誕120年を迎えます。

また、池部良は、石坂洋次郎のみならず川端康成の小説を映画化した「雪国」(1957、東宝)にも、日本画家・島村の役で主演しています。

### 池部家の近所に住んでいた文化人たち

池部良が幼少期に自宅から200m圏内で、川端龍子・石坂洋次郎・川端康成と同じ時間と空間を共有していたことがあったのは奇縁と言えます。

ちなみに川端龍子とは誕生(1918)から出征(1942)まで、石坂洋次郎とは6歳(1924)から7歳(1925)まで、川端康成とは10歳(1928)から11歳(1929)まで、ご近所さんだったという訳です。



【写真】白田坂下の龍子記念館入口信号付近。ここを左折したところに池部邸がありました

### おわりに

「そよ風ときにはつむじ風」の「洒落」という章には、当時見た映画の弁士の語り、鮮やかに活写されています。池部良が映画の道に進んだのは、幼少期に家族と一緒に時折、「新井キネマ」でみた阪東妻三郎らが出演した無声映画の影響があったからかもしれませんね。

機会がありましたら、池部良の映画やエッセイに是非とも触れていただき、昔懐かしい大森新井宿に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。(敬称略)



【案内地図】池部良の★印は、かつて池部邸があったところで、石坂洋次郎と川端康成の●印は、現在、文士住居跡解説板が設置されている場所。また、川端龍子の■印は、かつての住居跡。